

## 令和2年度改定を踏まえた DPC/PDPS の現況

### I. DPC/PDPS の現況

#### 1 病院の規模

##### (1) 病院数

令和2年4月時点で、DPC 対象病院の数は 1,757 病院（前年度+30）、DPC 準備病院の数は 249（前年度-10）となった。

##### (2) 病床数

令和2年4月時点で、DPC 算定病床総数は DPC 対象病院が約 48 万床（前年度約 +0.1 万床）、DPC 準備病院が約 2.2 万床（前年度約 -0.2 万床）となった。

そのうち、急性期一般入院料 1～7 の届出病床数は約 39 万床、特定機能病院入院基本料の届出病床数は約 6 万床。また、同時点での DPC 対象病院の 1 病院あたりの DPC 算定病床数の平均は 275 床、最小は 19 床、最大は 1,270 床。

#### 2 診断群分類

令和2年度改定を踏まえ、傷病名数は 502（前回-3）、診断群分類数は 4,557（前回-398）。そのうち、包括対象となる分類数は 3,990（前回-306）、支払い分類数は 2,260（前回-202）。（前は平成 30 年度診療報酬改定時。）

### II. 令和2年度改定における対応

#### 1 医療機関別係数の見直し

##### (1) 基礎係数（医療機関群）

医療機関群の設定は従前の 3 つの医療機関群の設定手法とした。DPC 特定病院群については、直近の大学病院本院のデータに基づく 4 つの評価基準とする手法を継続することとした。（DPC 特定病院群の基準値は参考資料参照。）

##### (2) 機能評価係数 I

入院患者全員に対して算定される加算等を係数化する現行の評価手法を継続し、医科点数表の改定に応じて、各項目の評価の見直しへの対応や新設された入院基本料等加算の設定等の改定を行った。

##### (3) 機能評価係数 II

従前の 6 つの係数による評価を維持するとともに、地域医療係数の一部の項目について、評価項目の実態等を踏まえた要件の見直しや項目の新設を行った。

(4) 激変緩和係数

従前の設定方法を継続し、改定に伴う変動に対応するための激変緩和係数を設定した。

2 診療報酬改定（出来高体系）の反映

(1) 診断群分類点数表の見直し

最新の診療実態等を反映できるよう見直しを行った。

(2) 改定率

医療機関別係数（機能評価係数 I を除く）の設定において、令和 2 年度改定に伴う報酬水準の変化を反映した。（DPC 包括範囲における診療報酬本体、薬価、材料価格に対してそれぞれの改定率を適用。）

3 算定ルールの見直し

(1) 再入院時の加算の取扱いについて

入院期間中に 1 回のみ算定が可能とされている加算等のうち、DPC/PDPS において出来高で算定するものについて、入院期間が通算される再入院の場合は算定できないことを明確化した。